

香川県立三本松高等学校 「三高みんなの食堂プロジェクト」

「三高みんなの食堂プロジェクト」

【活動概要】

地域の人たちと一緒に自分たちの手で三本松高校の学食をよくなり、そこを中心に地域を元気にする活動

- 2020年9月に活動開始
- 生徒が地域の人と協力して主体的に活動している
調理・運営は地域の農業法人の方々
地元産の野菜、米、魚を中心に安価で美味しくパランスの良い食事
- 授業でも部活動でもなく自分の時間で取り組む「プロジェクト」という意識
勉強や部活動をしながら自分の時間を作り出して活動
- 全校生・全職員が参加者
運営側の視点で学食に関わり、自分たちで学食を良くする主体的に行動することがみんなの目標
自ら名乗り出たプロジェクトリーダーが中心となり、チームをつくって自主的に活動
自分の良さや強みを発揮する場、チャレンジするチャンス
全員が同じではなく、それぞれの状況に合わせて活動

- SDGsの考え
食品ロスの削減、地産地消の推進、物を大切に活動
そしてずっと住みまわす
- みんなの得意を生かした活動
普通科、理数科の学校のなかでその特色を生かした活動
- まずは学食から
まずは身近なところから良くし、学食を起点に食を通じて地域が元気になることを目指す
- 地域の方と交流の場
高齢者の方の学食利用など
地域の方と生徒の交流を
深める活動
- つながり
いろいろな立場の
多くの方の力で
成り立っている
プロジェクト



日替わり定食

【各チームの主な活動】

- それぞれのチームで失敗を恐れず自分のやりたいことに挑戦する。やりたいことがあれば新たに「チーム」を作る
校外でのイベントはチームにこだわらず、どのチームのリーダーも参加
- 畑チーム
校内に開墾した畑で育てた野菜を食材やマルシェで利用。循環型農業にも挑戦中
- メニュー開発チーム
主に地元の野菜や魚で食品ロス削減にむけたメニューを考案
- 内装・装飾チーム
地元産の廃棄物を有効活用。のれん、織、ビニールテープなどの作成
- 総務チーム
経営の改善に向けての活動と各チームの経費管理。全校生の意識を高める活動
- マルシェチーム
地域でのマルシェに出店して地域との交流と活動を知ってもらう
- イベント企画チーム
餅つきや焼き芋大会、梅ジュースの作成と配布など各種イベントの企画と運営
- 広報チーム
手書きメニューやコラム、活動の校内への広報活動とSNSなどで校外への発信
- ものづくりチーム
オリジナルタオルのデザイン、木製の食券や会員証の作成、いすのリニューアル
- 環境整備チーム
ゴミ箱の修復、ベンチのペイント、食堂の内外をきれいに整える清掃活動

「できるときにできることから自分たちの手で」

【目的・志】

一部のリーダーだけの活動ではなく、みんなが自分で考え自ら行動できる人になる
リーダーでない人は他の活動ではリーダーに、リーダーは他の活動ではサポーターに



ゴミ箱をリペアする高校生ってかっこいい

- すべての人が自分のこととして行動することをめざして
- 全校生で取り組む
生徒と先生、学校の全員が参加者として、同じ立場から自分たちの場所をよくしようとする自主的な集まり。
それぞれの人の状況に合わせて自分たちでできることをできるときに実行している。
- この活動に指導者はいない。リーダーを中心に一人一人が主体となって自主的に活動している。



みんなに拍手、全校生の力

みんなが同じところを見ているってすごい。だからできることがある

- 完全事前購入の食券制度、メニューは日替わり定食(弁当)1種類、旬の野菜が続くこと⇒みんなの理解でロス削減
規格外などの活用、地域食材を積極的な利用を進めたら⇒コストダウンで持続可能な安定経営の学食
みんなが理解して行動することで実現できている
できることはいろいろある。
学食で食べること、この活動を理解すること、応援すること、広めることも活動の一つ



みんなで、日常的に、継続して

慣れない活動を続ける。多くの人の一歩一歩で

○リーダーもリーダー以外の人それぞれの中で参加者としてできることを考えて行動する



リーダー会

生産者がいて消費者がいるという、食べ物が自分の元に来るまでの過程を考える意識をもち、まずは学食という自分たちが直接手の届くところからの行動を広げていくことが、私たちの目標
持続的に安くておいしい食事が食べられるためにできること。そのために自分たちが進んで活動する
多くの人と関わりをもち地域の人や学年をこえた交流をすることを大切にしている。

学食から学校全体を、学校全体から地域全体を、地域全体からまち全体を
よくしていくことを目標として活動している
学食で実践しているSDGsの考え方を地域へも伝える



規格外野菜の新たな活用

「学食から地域食堂へ」

「学食を地域の人のとっても大切な場所、地域の人との交流場所にする」

3年間で三高生にとっていい場所になった三高の学食を
地域の人のとっても、行きたくなる場所、なくてはならない場所にする



地域の方に喜ばれること、地域の方と一緒に取り組む活動をたくさん実施中

おばあちゃんたちの笑顔

顔を見ながらみんなで食べるって最高!

- 高齢者など地域の人の学食を利用してもらっている
楽しく明るく食べられる場所
高齢者同士の交流場所
高齢者と高校生との交流場所



学食利用の地域の方



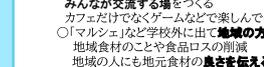
こどもも年寄りも「みんなの交流カフェ」

半学年ごとに、世代を分ける1日だけの地域のミニイベント開催



「交流カフェ」地域の空施設を活用して

- 交流カフェいろいろな世代が楽しみ
みんなが交流する場をつくる
カフェだけでなくゲームなど楽しんでもらう
- マルシェなど学校外に出て「地域の方と交流」する
地域食材のことや食品ロスの削減
地域の人に地元産の野菜を伝える
地産地消を進めることによる
食品ロスを削減できるメニューの提案
地域の人に「三高みんなの食堂プロジェクト」の活動を知ってもらう
- オリジナルタオルを作って親しみをもってもらう
- マルシェは独立採算制に
食堂に発注し、仕入れて販売 双方の収益をめざす
○活動費を得る工夫と努力
いろいろな活動をして自分たちで活動資金を得る工夫



1日食堂でのシェフからメッセージ

- 「日食堂」は地域の飲食店さんが学食に来て料理を提供してくれる。焼肉屋さん大人気



三高みんなの食堂オリジナルタオル



「おみかえるハマチたち」

ハマチの中骨からソフトふりかけ誕生、いやほ!



ハマチの中骨



ソフトふりかけ開発



「おみかえるハマチたち」を販売

- 地域の人とつながりながら活動をたくさん進めている
地元漁協からハマチの中骨をいただいたとき
未活用部位の活用方法を広げる



エコパックはレザー(革)でクールに

雑材の革と使っていない紙パックがいっぱいになるとどうしよう



革のエコパック

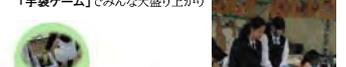
- 東かがわ市は手袋のまち
捨てられる革の手袋のまち
みんなで持ち寄った紙パックと
組み合わせて作ってみました
このワークショップも大好評



Good job! 手袋レスキュー隊

捨てられるはずだった「片っぽ手袋」がみんなを救ってあげて

- 廃棄予定の手袋が
「手袋ゲーム」でみんな大盛り上がり



○学食の生ごみは地域の企業から
循環型の取組を進めています



【成果・実績】

私たち、ステップアップ?した!

私たち、人としてとても成長してきています。実感があります!

- 一体感を感じる
経営が弱体化した学食を全校生で立て直そうと、一人一人が自分事
として、食堂の継続性について考えるようになった。今は様々な
学年の多くの生徒が利用している。食堂がよくなって学校の雰囲気も
良くなっていくと感じる。応援してくれる人や自分からやってみようと思
う人が多い。
- 活動するほどやりがい
この活動を通して、学校のみならず地域の方々に喜んでもらえる感謝
の気持ちが増え、やりがいをもつよう意識的に活動できるようになっ
た。生徒の学食利用率がかなり上がった。
- 素晴らしい発見があった
今まで目を見向けたこともなかった地域特有の産業や魅力について深
く知ることができ、以前よりも地域に対する興味や関心が湧き、地域
のことを好きになった。



喜んでくれて嬉しい!

いつもここで飲んでおられる場所、大きなことでなく

- いろいろな人に喜んで食べている
この活動を通して、学食を利用していただいている地域の人や食材を
提供していただいている人ももちろん、たくさんの方に喜んでもらえ
た。マスコミの報道などで取り上げられた際には、私以上に地域の人が
喜んでくれて、とてもうれしかった。
- 人とのつながりを感じた
この活動で、多くの人が関わってくれて、大切に思っているからこ
そ成り立っている。目に見えないところで私たちがために支援・協力
をしていただいている方がいるということを知り、つながりを大切に
している。
- 食に対する意識が変わった
実際に野菜を作ることになった私たちがだからこそ、食べもののありが
たみや作っている人たちのすこさや苦労がよわくわく。食べものの無駄
にせず、大切にすることができるとも思っています。学食でみんな完全



わかるわかる! チャレンジの楽しさ

気軽にやりたいことをやってみよう。

- チャレンジ精神が身についた
とにかくやってみようというチャレンジ精神が身に付き、やってみて得られ
ることがたくさんあった。やりたいことが気軽にできるのも、積極性や主
動性も同時に身に寄せることができた。
- 次は自分たちがまちを担っていく存在に...
この活動のおかげで私たちが地域の一人であるという実感を強く持つ
ことができたことに、自分たちの活動で関わりを変えていくことができ
て高生でも多くができるということを実感し、自分たちの力に自信があ
った。卒業、この活動を継続した自分たちが中心となって地域を動かして
いきたい。



わかるわかる! チャレンジの楽しさ

気軽にやりたいことをやってみよう。

- チャレンジ精神が身についた
とにかくやってみようというチャレンジ精神が身に付き、やってみて得られ
ることがたくさんあった。やりたいことが気軽にできるのも、積極性や主
動性も同時に身に寄せることができた。
- 次は自分たちがまちを担っていく存在に...
この活動のおかげで私たちが地域の一人であるという実感を強く持つ
ことができたことに、自分たちの活動で関わりを変えていくことができ
て高生でも多くができるということを実感し、自分たちの力に自信があ
った。卒業、この活動を継続した自分たちが中心となって地域を動かして
いきたい。

「ずっと住みたいまちを目指して」「仲間をひろげる」

以前よりも好きになったこのまちがもっとよくなり、いいまちであり続けてほしい

まちの未来につながる活動

高校生だからできること、得意なためになること

- みんな活動すれば食堂が変わった。学校が変わった。
まずはこの活動を続けること、そして後輩たちにもつないでいく
みんなにとって、楽しく元気になるかけがえのないみんなの食堂に
そして高校が地域の人にとって大切な場所になる
今の活動を進めれば、学食と高校は地域にとっての大切な場所となる

まちも同じようにみんなが動けばよくなっていく。
とにかく行動できる人、そんな人にまずは私たちがなりたい



いろんな所にプロジェクト仲間を

同じように食に関わる活動をしている高校生や大人たちと繋がりたい

まずは食の活動をする仲間をつくって、地産地消の美味しい食事ができる高校生をふやしたい
同じような活動が広がれば、高校生もまちも元気になると思う。

同じ志を持った高校生や大人と繋がりたい
多くの仲間と一緒に活動したい
分野が違ってても繋がれば生まれるものがある



子供たちとワークショップ(革でエコパック)



日本で唯一の木製の食券
よみのつくりチーム



サマヨイの梱包付け



ボランティアって?

やってもやらなくてもいいことを自分からできるのかな
誰かがやってくれるとありがたいけど、誰かのためにすること
やった方がいいのかわかったときの第一歩
何ができるか見つけるかもみんなであってほしい



集合写真

活動団体プロフィール

生徒が主体となって地域のひとともに高校の学食を活性化し、そこを拠点として地域
を元気にしようとする自主的に活動している。
2020年の9月から部活動でも委員会でも「プロジェクト」として活動を開始。
誰からも指示されることがなく自分たちでできることを考えて活動する集まりで、ほとんどの生
徒が部活動にも所属している。
「三高みんなの食堂プロジェクト」は三本松高校の生徒全員と先生が参加者で、みんな
が自分のできるときにできることを実行している。
さらに積極的に関わる「プロジェクトリーダー」は自分やりたいことを見つけてい
る人を中心に活動している。プロジェクトが始まったときは24人だったリーダー
が、今は66人になっている。学年やクラス関係なく仲間みんなよく来て活動している。
さまざまなみなさんに参加してこの活動を発展し、交流の輪を広げようとしている。